

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- ・フランクフルト・ブックフェア-雑感およびフランス事情 1
- ・フランクフルト・ブックフェア-運営改善の動きなど 2
- ・理事会報告・お知らせ 3
- ・海外ニュース 4
- ・委員会報告<文化厚生委員会>ほか 5
- ・新・パソコン外論考(其41) 6
- ・出版文化史道遙(84)洋書の歴史雑記帳〔XXXIX〕... 7

フランクフルト・ブックフェアー 雑感およびフランス事情

今後フランクフルトのまま継続か？ミュンヘンへ会場移転か？かねてより論議の中、第55回フランクフルトブックフェアは去る10月8日より13日までテーマ国「ロシア」のもと例年通り開催されました。

ミュンヘン市は誘致にあたり世界最大のビール祭りオクトーバーフェストの後にブックフェアを開催し、同時に来場者および収益の増大をねらっているという説もあります。このためか、今回はフランクフルトのホテル代も（直接予約で私の利用したホテルに関していえば）例年より安く、会場までのシャトルバスも無料、ブックフェア入場パスで、フェア期間中市内交通機関乗り放題というチップつきです。

さて数値から見ると、今回の参加国は102カ国（前年比 - 8.2%）出展社数（単独ブースで）6612（+ 3.5%）入場者数273229（+ 7.7%）となっています。

これはSARSやイラク戦争というマイナス要因のあった年としては盛況といえるのか？ この6 - 7年連続マイナス成長の日本出版界としては励みになるのか？ わが洋書協会としては？ ブックフェアに参加された皆様は、それぞれ専門分野は異なるとしても、このフェアの存在意義をどのようにお考えでしょうか？

勿論、会期中いっきに世界中の多数の出版社と商談できるメリットは否定できません。しかし皆様にとっては全くマイナーなフランス出版物を中心にビジネスをしている私にとってはフランクフルトブックフェアの必要性がある面では変わってきているかもしれません。

これはフランス出版界においてもここ数年M & A現象が見られ、出版傾向の変化、すなわち学術書出版の低迷、マスマーケット向け廉価本の増加、また商品媒体の変化に起因するでしょう。

フランスのホールを見渡しても、以前は学術書、一

般書含めかなりマイナーな出版社も単独ブースを設け奮戦しておりましたが、パブル崩壊以後は姿を見せず、出展は大手および中堅出版社の単独ブースと、その他はフランスナショナルスタンドに集結といった状況です。フランス新刊高額学術書セットものでビッグディールなどは昔の話でしょうか...

そのうえ昨年のアシェットグループによるピバンディエグループ出版部門（ラルース、ボードス、ロベールラフォン、スペインのアナヤ等を含むフランスナンバーワンの出版グループ）買収工作によりフランス出版界勢力地図に異変が生じています。このままでは、出版、流通においてアシェットの国内シェア独占が懸念され、今年からブラッセルのEU検討委員会介入のもと議論がなされてきました。間もなくこの買収劇も終幕を迎えるでしょうが、フェア中も、フランス出版社仲間はEUの判断、アシェットグループ社長ラガルデルのかけひき、新たな買収劇参加者について言及していました。噂ではアシェットは辞書のマーケット補強のためラルース社、またスペイン語圏で強力なスペインのアナヤ社などをキープ、他はバラして売却する。たとえば国内で教科書マーケット独占不可にてナタン社、ボードス社などは手放すらしいとのこと。（詳細は業界誌リーブルエブド参照）

ブックフェアの現状の話に戻りますが、フランス学術書の商談減少の一方で、ビジュアル書を中心とする商談、取引には新たな動きがあります。会場でのアポイントも洋書協会非会員との比重が増し、ヒットする刊行物も従来の大手出版社ではなく新鋭の中小出版社のものにシフトしています。よって、英米の出版社とテストの異なる個性ある刊行物、展覧会カタログなど、主にビジュアル書をチェックするには、フェア前後のバリ書店めぐりも重要です。最近グラフィック、デザイン書がフランスでも好調で、オープン

3年目を迎えるサンマルタン運河沿いのアートアザール、サンジェルマンデプレの老舗のラユンヌ、コンテンツボラリーアートのアーキュリアル、昨年改装オープンしたバレードトーキョーのブックショップなどは業界プロの第一チェックポイントです。これらのポイントで発掘したタイトルが千部以上売れた事例もあります。

今回も小社代表フランス、スペイン、イタリアなどラテン系出版社、取次ぎ業者と会議、その間を縫ってオランダ、ドイツのビジネスパートナーと人文社会術書および電子ジャーナルコンソーシアム年内プロモーションの打ち合わせであわただしく会場を駆け巡

りました。

このインターネット時代、電子メディアマーケット拡張時代、出版社にとってまた洋書取り扱い業者にとって21世紀のフランクフルト（ミュンヘン？）ブックフェアの位置づけはどのようになるのでしょうか？

来年は「アラブ諸国」がテーマ国で、2004年10月6日から同じくフランクフルトで開催予定です。未来を担うフレッシュな業界若手、また可能なら洋書協会非会員にレポートをお願いするのはいかがでしょうか？

（ビューローホソヤ 代表 細谷愛子）

フランクフルト・ブックフェア - 運営改善の動きなど

2003年のフランクフルト・ブックフェアは10月8日（水）から同13日（月）の会期で開催されました。統計上は、自社ブース出展社数も入場者数も昨年を上回りました。出展社数について言えば、ドイツ国内からの出展が大幅に増えたことによっています。しかし、昨年と比べて特に賑やかになったという実感はありません。むしろ静かな感じがしました。展示面積も昨年来を僅かに下回っております。総展示点数はほぼ横ばいですが、新刊点数に限っていえばかなり落ち込んでおり、前年比8.7%の減となっています。

展示内容の話題としては、相変わらず日本のマンガが持て囃されていたことが挙げられます。comicでもcartoonでもなく、mangaがそのまま言葉として受け入れられ使われております。時代劇の漫画にドイツ語のふきだしが付いているのも少し違和感がありますが、大変な人気です。漫画に限らず、人だかりのしている場所は大体が絵や写真が中心の出版物が展示されているところ です。

STM系の出版社の間では、雑誌取次Rowecomの破産の影響や、ドキュメント・デリバリー会社の横行など、暗い話題が多いのが実情です。また、Elsevier、Kluwer、Taylor & Francisをそれぞれの軸としたM&Aの話題にも事欠きません。

今回のブックフェア運営上で変わったことは、これまでの土曜日・日曜日の一般公開の日に加えて、金曜日を夜の8時半まで延長して一般公開の拡充をしたこ

とでした。これについては賛否両論あり、特にSTM系の出版社は無意味ということで困惑の色を隠せない様子でした。商談ということでは、水木金曜日の3日間で済ましてしまうのが普通になって来ており、土曜日以降は一般客の来場で、落ち着いて仕事の出来る状態ではなくなっています。今回はそれに加えて金曜日夜の一般公開です。出版社にとってこれによる不利益はありませんが、そこまで一般客に便宜を与える必要があるのか、という議論が当然のことながら出て来ます。

実は、これに関連してもう一つ今年初めてのことがありました。週末に一般客が入場するのは以前からのことですが、即売については禁じられていました。ところが、今年は最終日の月曜日だけは公に認める旨のお達しがありました。これまでも、そうは言っても即売が黙認されてきたような状況がありますが、今回初めて公認となりました。こうなると最終日だけでは収まるものではありません。一般客が入るということは、元来そこで本が買えるということが暗黙の了解となることが自然です。つまり、従来も結構即売は裏で行われておりました。出展社にしてみれば、帰りの荷物はないに越したことはありません。現実金曜日で版權売買や総代理権の話などが済んでいるのであれば、土曜日以降展示品を売り払っても誰の損にもなりません。

ところで、もう一つ今年の新機軸がありました。それは、前もって購入した展示者用入場券でそのまま市

内交通機関を利用出来る、ということです。注意書きには会場への行き来に限るとしてありますが、実際にはもう少し範囲を広げての利用も不可能ではありません。これには、上述の一般客優遇の問題と並び、展示出版社の間から何らかの圧力があったものと考えられます。予てから会期中のホテル代の高さなどが問題と

され、開催地をミュンヘンに移すような話も出ており、主催者や地元は必死にそれをくい止めようとしています。いろいろな要素を考えると、そう簡単には開催地を移すのは難しいと思いますが、この問題はくすぶり続けることでしょう。

(株医学書院 桑原七男)

理事会報告

10月29日(水)

1. (株)イタリア書房 伊藤基道会長が10月28日未明に逝去され、29日に前夜式(通夜)、30日に告別式が行われることが事務局長より報告された。
2. 2003年度上半期の収支に関する事務局長報告を了承した。
3. 以下の委員会報告を了承した。

(1)広報委員会

協会パンフレット改訂版を11月に発行する。

本版ではIndexの充実に重点を置いた。

会員対象のセミナーを開催する。

日 時：2003年12月3日(水)

テーマ：アマゾン・ジャパンの洋書戦略

講 師：アマゾン・ジャパン広報部

会 場：ルーテル市ヶ谷

(2)ホームページ・ダイレクトリー委員会

協会ウェブサイト利用状況調査のためのアンケートを実施した。(回答期限：11月14日)

(3)文化厚生委員会

新年賀詞交換会を2004年1月7日(水)に開催する。(会報10月号に予告記事掲載)

4. 消費税総額表示への対応策について

日本書籍出版協会などによる「税制等対策特別委員会」作成の文書が関口理事(代)/総務委員長より参考資料として提出された。同資料の対象は和書であり、再販外商品である上に価格改定の頻度が高い洋書については、対処が極めて困難である。税制専門の弁護士等への相談も視野に入れる必要がある。当面会員各社の実施事例を收拾し、会員からの照会に対しては「特別委員会」資料等の参照を勧める。

下記財務省ホームページからも概要参照可。

<http://www.mof.go.jp/jouhou/syuzei/siryuu/sougakuhyoji/sougakuhyoji.htm>

5. グレシャム理事より国立大学法人化(2004年4月)

への対応について、勉強会開催の提案があった。

訃 報

株式会社 イタリア書房 代表取締役会長 伊藤基道氏は予てより病氣ご療養中のところ、10月28日未明に逝去されました。享年72歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

10月29日に前夜式(通夜)、30日に告別式が西東京市・日本福音ルーテル保谷教会に於いて執り行われ、多くの協会会員が参列してお別れを惜しみました。

理 事 交 代

当協会理事社 日本洋書販売株式会社の11月17日付け役員人事異動の結果、以下のように理事が交代されました。

新 任： 賀川 洋氏 代表取締役社長兼CEO
(代理) 楠本 忍氏 常務取締役

退 任： 渡辺正憲氏 代表取締役会長
(代理) 大倉光弘氏 取締役副社長

渡辺正憲氏は同社特別顧問、大倉光弘氏は顧問にそれぞれ就任されます。



◆ Harvard Business School Press 日本で Random House と提携

Harvard Business School Press は日本市場での売上拡大を目指し、Random House Kodansha (講談社) と共同で新しいインプリントを立ち上げ、HBS Press タイトルの日本語翻訳版を出版する。この共同出版の第一弾は来春刊行される予定で、同社では年間で約 12 から 15 タイトルを出版する計画。同社宣伝担当重役、Sharon Rice 氏によると、Random House Kodansha 側では日本市場向けのタイトルを選書するチームを編成すること。新しいインプリントの名称は未定。RHK 社では選書したタイトルの日本語版権 (全世界の市場対応) を所有する。RHK の選書からもれたタイトルについては、これまで通り HBS 社側が版権販売にあたる (日本語翻訳権も含む)。この提携には HBS 社の過去・現在・未来のすべての出版物が対象となる。“The Future of Competition”、“Strategy Maps”そして“Out of the Box”が新しいインプリントでの最初の出版物となる予定。

PW NewsLine SEP 30, 2003

◆ ヒラリー・クリントンの著作に検閲を行った中国に対し IPA が抗議

国際出版協会 (IPA = The International Publishers Association) は、ヒラリー・クリントンの著作“Living History”の中国語版に行われた検閲に対して厳重な抗議をした。中国語版の出版社 Yilin Press は著作のなかで、中国政府の政策 (人権およびメディア抑制に関するもの) に触れている箇所を削除したとして非難されている。この変更は、中国当局により、著者もしくは米国版元 Simon & Schuster の了解を得ぬままに行われたもの。Yilin Press に対する書状のなかで IPA は、「これは知的所有権の侵害であるのみならず、著者の発言の自由を阻害するものである」と述べ

ている。この書状で IPA は、削除された部分を含む改訂版を刊行することを、出版社に求めている。この議論の行方は、中国出版協会 (The Chinese Publishers' Association) が出している IPA への加入申請にも影響を与えると思われる。

TheBookseller.com Informer OCT 23, 2003

◆ Nielsen BookData および Whitaker による書誌データ統合

Nielsen BookData (最近 Whitaker Information と合併した) は、この 10 月末を目途に両社のデータベースの統合を図る。新しいデータベースは、英国における出版社・書店にとって中心的な情報源となることを目的に設計される。この 2 社のデータベースが統合されることで、出版社は経費を節減できる——つまり、登録すべき情報の送り先が一箇所になるからだ... これは同社 Ms. Francis Bennett, Managing Director の弁。同社は、2004 年初めに別の新たな情報商品売り出す計画で、これはフランクフルト・ブックフェアでお披露目する予定。Nielsen BookData は、注文等のオペレーションを行う Nielsen BookNet を立ち上げている。

Authorlink News OCT 9, 2003

◆ Taylor & Francis、Swets & Zeitlinger を買収

Taylor & Francis は、工学、生命科学系出版社 Swets & Zeitlinger Publishers を買収した。Swets & Zeitlinger 社は英語で書かれた、工学、眼科医学、生命科学などの専門家向け雑誌および書籍を出版している。同社は現在、41 誌の雑誌および年間 100 タイトルほどの新刊書籍を刊行し、既刊書は約 2,000 タイトルほどある。買収金額は 1,675 万ユーロ (1,150 万ポンド)。売上高は、2002 年の 1 年間で 640 万ユーロ (440 万ポンド) で、その 62% が雑誌、38% が書籍によるもの。

the Bookseller.com Informer NOV 7, 2003

◆ Taylor & Francis のアメリカ戦略

今年初めに CRC Press を買収した Taylor & Francis 社は、アメリカへの進出を続けている。今回、同社はニューヨークを基盤にもつ STM 系出版社 Marcel

Dekker を買収することで、同社の合意をとりつけた。
買収金額は1億3,800万ドル。Dekker社の売上は、
2002年1年間で4,200万ドル、収益は320万ドル。同社

の雑誌部門は約78誌を刊行し、書籍部門は毎年200タ
イトルの新刊を出版、既刊書は約3,000タイトル。

PW NewsLine NOV 18, 2003

<ニュース提供：丸善㈱>

委員会報告 <文化厚生委員会>

【40-0（フォーティ・ラブ）秋合宿】

テニスサークル「フォーティ・ラブ」の秋合宿を
10月25日（土）川口市のグリーンテニスプラザで行
いました。朝からうす曇りの中、雨が降らないことを祈
りながら数名のメンバーで軽いストロークをしたあと
ゲームを開始。次第に人も集まって2面のコートはい
っぱいとなり、昼食をはさんで交代で各自数ゲームを
消化。一日中陽が照らなかった割にみんないい汗をか
いて4時に終了。シャワーを浴び川口駅付近に移動し
て軽くお酒を飲みながら夕食をとっていると、テニス
や仕事はもちろん、何処何処にいいお店があるなど
いろいろな話が飛び出し、とても和やかで充実した時間
を過ごしました。何といってもスポーツのあとのビー
ルは格段にウマイのです！

さてみなさんもお存知だと思いますが、軟式と硬式
では文字どおりボールの硬さ（重さ）が異なります。
中学や高校の時に部活や遊びで軟式をやったことがあ
っても硬式は馴染みがないという人は多いかもしれま

せん。しかし若干の違いはありますが基本的には面を
作ってボールを打つという点では同じです。軟式はボ
ールを叩く感じですが、硬式は上手くスイングに乗せ
るとでもいった感じでしょうか。したがって、プロは
別としてあまり腕力は必要ありません。ラケットも最
近はとても軽量化が進み、年齢も性別も関係なく誰で
も楽しめます。また40-0にはベテランが多く初心者
の方でも安心して参加していただけます。

次回は12月13日（土）に川口グリーンテニスプラザ
で開催します。興味はあるけどこれまで機会がなかつ
たとか、ウィンブルドンや全米オープンを観て刺激さ
れたとか、どなたでも大歓迎です。一人ではちょっと、
という方もお友達と一緒に是非参加してみませんか？
時間とか交通手段とか詳細についてはお気軽にお尋ね
ください。ご連絡お待ちしております。

（東京ブックランド カ石：ricky111c@hotmail.com）

会報合本製作中！

懸案の日本洋書協会会報301号～400号の合本版の製作に入りました。

洋書輸入協会時代の1992年6月より、日本洋書協会に改称後の2000年9月までの8年4ヵ月にわたる協
会活動の歴史の記録として、お手元にお備えください。なお、刊行間近になりましたら改めて詳細をご案内
しご注文を承ります。

予定価格：1冊 5,000円（送料込み）
装丁：クロス装
刊行予定：2004年1月

会報委員会

新・パソコン外論考(其41)

宇田川一彦

Time after time/何度も何度も

■ 子曰、唯求則非邦也与、安見方六七十如五六十而非邦也者、The Master said, "In the case of Ch'iu, was he not concerned with a state?" "What can justify one in saying that sixty or seventy LI square indeed fifty or sixty LI square do not deserve the name of 'State'?"

(論語/先進篇・Confucius/The Analects / Book XI)

【超拙意訳】先生は、言われました。「冉有のケースだが、これだって治める国はちゃんとした独立国じゃないか?」「六~七十里平方、ないしは五~六十里平方の面積をもちながら、独立国に値しない国が、どこにあるのか?」

【外注:冉有は、ちゃんとした国の政治の責任者になりたいのに、少し遠慮して六~七十里平方、いや五~六十里平方の小さな所を、というが、これはあまり意味がないことだよ、と孔子は思っていたわけです。もう一人の抱負に対するコメントは、次号で・・・】

Personal Computer と Software について - 5 -

ワードプロセッサについて

本稿を執筆する際に使用しているワードプロセッサは、フリーソフトのOpenOffice (統合ソフト)です。

【以下OpOfと略記。<http://www.openoffice.org>】

OpOfを使った本稿執筆の手順は、新規作成画面→ツール→行番号機能をオン→1行を24字、1段は42行×2段=84行に設定→執筆、推敲。ただ、1行の字数を仮に24字(12級)と設定しても、何かの拍子に1行が25字などに「勝手に(実は、筆者自身がマウスをいじって、何かをやった結果なのですが)」変更されているときがあります。この対策は、マウスのレスポンスを「遅く」(クリック反応も)ことで、多少解決できます。(知らないときは、最高速のレスポンスにしていますが、CPUの性能を考えると、遅い速いというのは、あまり差がないようです。しかし、最鈍速度にすると、やはりかったるいので、まん中の普通にしてあります)。

原稿用紙のマスを埋める習性から、1行何字何行詰めで何ページ分の「原稿量」かを、まず判断して書

きに入ります。かつてのDOSベースのワードプロセッサは、1行何字詰め、1ページ何行でをさきに計算して、余白をとるスタイルでした。が、Win用は、とまれ自動設定で書く、後に字数行数を考える、といったスタイルです。このあたりが、当初なじめなかったところでした。

このOpOfもWin用ですから、1ページ何字何行詰めというのは、のっけではできません。書式→ページ→上下左右の余白を決めます。文字種と何級の大きさの文字で表示させるかを決めます。実際に入力した後に画面を見ながら、一字一字数えて、余白の調整をしています(めんどくさくて、かつくやしいけど)。行間のアキに関しては、書式→段落→間隔で設定します。1ページ行数を、1行(ベタ)、1行半、2行(全角アキ)均等、最小、固定から選びます。写植の字間の歯送りや行間歯送りに慣れていると、どうしてもワードプロセッサのこの設定には、不安を覚えます。

これにフォトデータなどの画像データも同一ページに表現できるとなると、かつてのDOSベースのワープロソフトよりは、はるかにましです。ただ操作は、複雑ですが・・・次号で、キーボードのユーティリティ(utility)の紹介を、と思っております。

Internet について(博物館海外編 - New York 10 -)

アメリカ自然史博物館 (American Museum of Natural History =<http://www.amnh.org>) の5回目。

▲同館の特徴のひとつである (Frederick Phineas and Sandra Priest) Rose Center for Earth and Space (ローズ宇宙センター) は、81丁目側に面して建てられています (2000年2月)。総ガラス張りのなかに大きな球体が浮かんだような外観は、なかなかのもです (一見の価値あり)。B1FのCullman Hall of the Universe、1FのHeilbrunn Cosmic Pathway通って、2FのBig Bang、3FのHayden Planetarium Space Theaterから構成されています。

地下鉄から直結しているCentral Park West入口のチケット売り場で、combination ticketにしますかと、聞かれました。本館+ローズセンターの共通券なのですが (一般19ドル)、いまさらプラネタリウムでもないだろう、時間もないしと思い、本館だけ10ドルの方を選択。ローズセンターに入って、これはケチって失敗したと感じました。(この項続く、乞ご期待)

洋書の歴史雑記帳〔XXXIX ドイツ学術受容の歴史(2)〕鈴木陽二

日独学術交流の淵源—キリシタンの頃—(2)

キリシタン宣教師によるドイツ人原著の書籍の輸入が、トマス・ア・ケンピスの『キリストの倣ひ』以外になかったかどうか、不明である。

1593年に帰国した天正遣欧使節の滞欧中に数々の書籍が贈られており、その中にオルテリウスの世界地図とブラウン＝ホーヘンベルクの世界都市地図があった。それまで航海地図などが散発的に流入していたようだが、本格的な地図帳の移入が確認出来るのは本書が最初で、日本文化史上瞩目すべき出来事だった。

イタリアのイエズス会士ダニエル・バルトリヤフロイス、デ・サンデなどいくつかの使節行記によると、使節一行がバドヴァでヨーロッパ最古の植物園を訪問しており、園長メルキオール・ギランディニから地図4冊が贈られた。一冊はオランダのオルテリウス制作の世界地図帳『地球の舞台』(1570)で、他の3冊はドイツ人による都市地図帳だったという。この都市地図帳は“Georg Braun & Franz Hogenberg-Civitates orbis terrarum”(1572)だったと目されている。

この地図の詳細は諸文献を参照いただきたいが、ドイツ文化との交錯のごく初期の重要な史実なので、一応解説しておきたい。ブラウンは1541年にケルンで生まれた聖職者でアントワープ滞在中に外国商人と交流したり、教会活動でヨーロッパ各都市に赴いた機会に収集した地誌的な知識がこの地図の制作に結びついたようで、編纂責任者は彼だったと見られている。ホーヘンベルクはベルギー生まれのドイツ人で、20歳頃にはオルテリウスやメルカトルと親交があり、上述のオルテリウス世界地図帳の大部分は彼の銅版彫りで製作されたという。都市地図帳の制作については恐らく技術的な側面で主導的な役割を果たしたと考えられている。この地図には450あまりの都市の600図が収録されているが、うち100に上る多数のドイツ都市が掲載されているので、日本の知識層にどこまで浸透したのかは別にして、ドイツに関する豊かな情報が流入していた確かな証例だろう。地図は全6巻で刊行されたが、寄贈を受けた時の既刊は3冊だけだった。

この都市地図帳は、直接的には江戸時代初期に描かれた「四都市図屏風」に模写されているが、イエズス会画派と呼ばれた絵師によって描かれた地図屏風は多

く、日本の一文化を形成したと言えるだろう。例えば、同じ江戸初期に28の外国都市を収載した「万国絵図屏風」が制作されたが、それにはドイツの都市としてハンブルク、ケルン、フランクフルトが描かれている。

日本における世界地図は、キリシタン時代から江戸初期には美術品としての地図屏風が中心だったが、時代が進むにしたがって世界地理に対する関心が学術的な色合いを強め、細々ながら西川如見や新井白石などにより知識が深められ、世界地図も、例えば中国のイエズス会宣教師マテオ・リッチの『坤輿万国全図』などが流入した。八代將軍吉宗の洋書輸入解禁により外国地図も輸入が増え、その世界地図の研究が進み、また地図製作技術も向上して、蘭学者や幕府技術役人による精密な地図が作られるようになった。

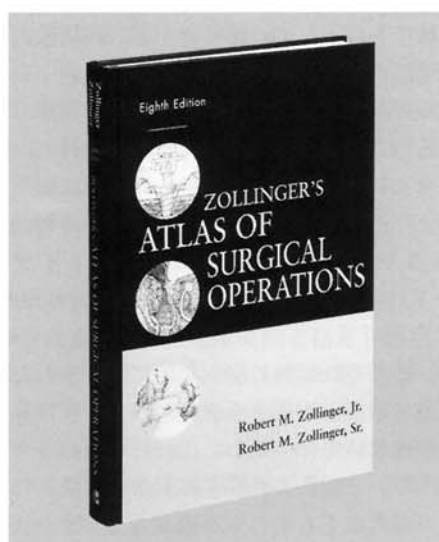
1820(文政3年)佐渡宿根木に生まれた新発田(柴田)収蔵は若いころから地図の制作に関心をもち、江戸へ出て伊東玄朴に医術・蘭学を学んだ。後に儒学者古賀謹一郎より楢円地図の指導を受け、彼が藩書調所の頭取になるや絵図調出役を命ぜられ、ドイツの“K.Sohr & F.Handtke-Universal Handatlas”(1846)を参照して官版『重訂万国全図』(1855=安政2年)を制作した。またそれ以前の嘉永年代にも、優れた地図の制作や地名事典の編纂を手掛けており、彼は幕末における世界地理研究に貢献した逸材だった。

「シュクネギ」と読む音の響きに引かれて訪れた宿根木は、江戸時代に千石船の寄港地として、また佐渡産出の金銀を本土出雲崎へ積み出す港として栄え、往時には佐渡の富の三分の一が集中したという。岩礁の多い港には千石船を係留した御影石の杭が幾本も見られ、國の「伝統的重要建造物群保存地区」に指定されて古い家並みを良く残しているが、昔日の繁栄が嘘に思える程小さな静謐に満ちた集落である。1ヘクタールに210棟の家が詰まり、迷路のような狭い通りを挟んで赤茶けた板壁の家々が、寄せ木細工のように隙間なく空間を埋めている。その集落相は特異なもので、強風に吹きさらされて奥へ奥へと山の狭間に後退して行ったためといい、海岸に面して家々を守る竹の防風垣が高々と圍繞している。〔参考文献：松田毅一『天正遣欧使節』/矢守一彦『都市図の歴史—世界編—』/織田武雄『地図の歴史』〕(元丸善・本の図書館長)

ゾーリンジャー 外科手術アトラス 第8版

Zollinger's Atlas of Surgical Operations 8th Edition

Edited by: Robert Zollinger



◆手術手技の解説を志向した最も包括的な古典的外科アトラスの第8版。広範な外科処置に必要なテクニックを網羅し、その手順を豊富な高品質イラストを多用して"step-by-step"のアプローチで示す外科臨床医必須のレファレンス。新版では、最も一般的な腹腔鏡下手術や内視鏡下手術から、最新のセンチネルリンパ節生検(SNB)、術前・術後準備などまでが収録されている。

◆Contents:

Chapter I: Surgical Technique/ Chapter II: Anesthesia/
Chapter III: Preoperative Preparation and Postoperative Care/
Chapter IV: Ambulatory Surgery; Surgical Anatomy;
Gastrointestinal Procedures; Miscellaneous Abdominal
Procedures; Vascular Procedures; Gynecologic Procedures;
Miscellaneous Procedures.

◆468 pp. 401 figs.
8th ed. 2003
¥31,000

McGraw-Hill, NY
日本総代理店 医学書院



IGAKU-SHOIN

〒113-8719 東京都文京区本郷 3-24-17 ☎(03)3817-5680 FAX (03)3815-7805
E-mail fd@igaku-shoin.co.jp <http://www.igaku-shoin.co.jp>

日本洋書協会会報 vol.37 No.11(通算438号) 発行日 2003年11月25日 編集者 高橋 紘

発行所 日本洋書協会 〒103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4・20 TEL 03-3271-6901 FAX 03-3271-6920

URL: <http://www.jaip.gr.jp> E-mail: jaip@poppy.ocn.ne.jp